

このところ「校長室便り」が書けていません。以前は3日に一度は出していたのに。申し訳ありません。この校長室便りは保護者や地域の方々向けに、学校の様子を中心に、伝えたいと思ったことをできるだけ誠実に伝えていました。

書けないということは伝えたいものがなくなったのか、ということではありません。書きたいなあと思う話題は事欠かないのに。私自身感謝が足りないのです。自分を見つめて反省をしました。

保護者や地域の方、そして、生徒との日々。こんな素晴らしい学校に勤めさせていただいているのに、幸せな気持ちに慣れてしまって、感謝の気持ちが足りなくなっているのです。

感謝が足りないから、伝えたいと思う気持ちが薄れて、他のことにばかり気持ちが行ってしまっているのです。

そんな気持ちを抱える中で、すてきな本に出会いましたので、その一部を紹介します。

#### 「子どもに与えられる最高の贈り物」(『10代の子どもの心のコーチング』菅原裕子著より)

人は様々な事情を抱えて生きています。一人で子どもを育てている人、大切な人を亡くした人、病気で苦しんでいる人、子ども時代の思い出に悩む人、年老いた親を介護しながら子供を育てている人。あなたの事情は何でしょう。

そして、人は思います。その事情を抱えている、だから子育てがうまくいかない。

そして、私は言います。その事情は、だから子育てがうまくいかない、その理由ではない。

子育てがうまくいかないのは、事情があるからではなく、親が幸せでないからです。本当の意味で幸せではないからです。

世の中、事情のない人はいません。大なり小なり、何らかの事情を人は抱えているものです。そして、事情のせいで不幸せな人と、事情はあっても幸せに生きている人がいます。

**子どもにとっての贈り物は、幸せな親です。**さまざまな事情を抱えていても、その事情とうまく付き合いながら、**自分の人生を幸せに導いている親**です。

親が幸せであるとき、子どもは心おきなく、子どもらしさを生き、甘え、悪態をつき、さんざん反発をして、ある日突然、親を残して去っていきます。

それは、自分が残してきたものに心配がないからです。親は自分がいなくても幸せに生きていくことを、子どもは知っているからです。(以下略)

相田みつをさんの「しあわせはいつも自分のところがきめる」という言葉を思い出しました。